



誥 儀  
古 札 塔

中村俊定文庫  
文庫 18  
319





芭蕉翁

變匊屎

信陽佐久郡連



芭蕉集



難山自序

貞享五年秋九月廿一日  
於下城とて校の吟あり  
於後山とてしつゝの付と  
歎一更級を十一年より  
四門の若き人より  
ゆへとててん事信清  
おきよとてら終る也  
明徳原石を信子如  
於今とてと満面  
胡砂とて後と難水  
山とてとてしつゝに  
柳とて



り決しむ武陵に杖と伴つてあるは櫻を  
ゆらぐるに似て月の佳境と名づく  
るゆかりししと頭飾りの産るるを  
見ゆきつりつと高の巻外を遊びし  
松原象浮の巻に日に出たての  
珠くきいふ花やうて親なるに望  
ふるしと名づくは世國と名づく  
吹川に流く高の巻と名づく  
数多の巻中甲子に絶行の巻に  
見形の

文甚き巻書ゆしやうはあまを  
玉巻形るる巻のしは清く家國  
を絶するに田舎と名づく  
りし巻翁自画談五文字えりし  
諸集に據て再考小のてりし今  
湖南の巻推せん山は地と名づく  
ゆる巻息朝堂は子と名づくに  
道長信巻絶するに由るに  
りし巻はけし巻と名づくに雲  
あはしと名づく巻と名づく



通志書の人出給と合く麻ひとのも此  
 日の中は異行を求むしと申ひとあり  
 考くみ深き母古一貫の切米をより解を  
 うけりて南面に建川碑面句申は  
 一字を痛く号と為侍と解りてあり  
 其に松ありて振りりてと云ふ三秋の月  
 明しく海に三尖を号とも向ぬれと云  
 たりと申ひとまじ也と申唯景泰初年  
 幸ありて一時寶曆の年甲戌と

けりともありてと云はばりてありて  
 近化きえ録甲戌と云はれりおき周  
 海への不可思儀ありと云はれり先人  
 陪海甚く感ふと云はれりと云はれり  
 一程と云はれり







次韻三ッ物

芭蕉翁

えりた田中をよみけしけしけしけ

うりし松角のふると遠く

そよそよと音もささるる

兔年

耕月



二月

古月夜の静と静と  
息のことと次く

見ゆ急の悟れりや 静人像

雞山

焼は常の静の静なきは意

其石

三月

嘆を静もよと意しり指

瑞芝

静保根の常も意し指さく

鴉天

四月

息を静もよと意し玉と意せ

霞紅

嘆を静もよと意し玉と意せ

柯則

五月

く静もよと意し月と

仙風

早もよと意し月と

旭山

六月

静もよと意し月と

鳥白

息を静もよと意し月と

夏仲

七月

静もよと意し月と

一觚

息を静もよと意し月と

馬鳴



八月

種まけくちんちんやあけの蜂

五徳

月ご代まのまゝのしん

阪業

九月

あまのまゝのまゝのまゝ

以こ

あまのまゝのまゝのまゝ

玉柯

十月

あまのまゝのまゝのまゝ

秋郎

あまのまゝのまゝのまゝ

魚明

十一月

あまのまゝのまゝのまゝ

戸遊

あまのまゝのまゝのまゝ

里桃

十二月

あまのまゝのまゝのまゝ

信夕

あまのまゝのまゝのまゝ

漱之

閏月

神祇 釋教

あまのまゝのまゝのまゝ

雲程

あまのまゝのまゝのまゝ















元胎一湛子の志をあらわして

戸邊

うねるもてこころの海ありぬ

妻伴

あしなる波見の幕の別世界

其石

をアツとてきて是んまの金

玉珂

鏡のきこえをとりて蠅くら

鳥白

まの店の時の海ありぬ

燧郎

沸肉を沸かすはくはく

一觚

あつとて海に風の吹きよ

仙風

こころの何の志ありぬ

阪東

このよの国も是れよの秋

魚明

夕陽は行側所は海に響けり

兒杖

いんじんもよの海に響けり

柯則

人まへもはなを思ふはつた

霞紅

いづれも人真を周し

帆歩

陣くこやう相地にて迎ひけり

難天

いづれも海に響けり

箫雲



しんじの寺の松を松ぞ歩

松丈

このものさし夜を一色

梧夕

着ひてはる老女の腕まくり

桃壽

市々にゆりしはなはく

松風

石月を望みし雲もらるる

順水

舟はあふらや柳らうりぬ

關月

測りてはまねの杖を壁との

山二

さうゆ一挺をわくゆぬ

五徳

通人傳らうしうらほとあれし

桃水

ソラまゝを審のいれぬ盗人

旭山

東の文を筆とけりし馬

馬鳴

旭もむらうら物紅の鏡こがね

山朗

そよとさよ不之まゝの塔の花

鶏山

けししと咲ぬ赤白のなま

耕月





昔の金と寺の文苑すかみびりく風言はと事て句と原  
 以陀の夢くかたはものまへ今歌を願てりけをたすさるる旅の夜  
 後くさきすくふんかあめ国地をたつくちか句と感はるもの文  
 ちりてふらと祖のまきと對するも好ありし

奥十山

しけくも金と心む ちるくく  
 檜のりけもや雲とけしきさ  
 方山

姨捨山

姨石乃きの妻くわりの月  
 姨捨の曇るくくソクまひの事  
 涼兔

信濃路

十月のいんぼや月の照る雲  
 乙をい土て家するまをいふ  
 猿雖

風俗

いりかあまの信濃くま士に備りけり  
 山吹も巴もかして田種うめ  
 去来 許六

寒襖

我るを緒あひりきさる菊  
 味もはあひり一日はくまきり  
 乙由 貞佐

村里

門の雪印も 鹽ととまらぬ  
 玉吹雪の信濃もゆく月の秋  
 嵐雪 珪珠



土産

ちる花の世や若る春四と管位皇  
喰つゝわき高の白ひの松もの  
越人 俸水

祥異

ふそり人ひ思りし福の布  
石蔵のまゝも清るの灰の壺  
東鷲

関梁

妻村や橋を又えて船ア  
海方の石よまらな橋も砂の付  
宗瑞 其角

山川

乞ふまはし(が)川をまらまら  
秋のひれ合りる陽や世のち  
乃良 女の

吏級

月影一田毎の夜とゆき  
雲よまら我の田毎の月の照  
露川 如泉

若光寺

山と月と夕日や堂の影の  
物にわき高のまらまら  
柳古 里和

御射山

雪國やまらくそ煙の花ま  
物にわき高のまらまら  
寺盛 寺躬

古蹟

こけりやまはれまら高の  
跡にわき高のまらまら  
休甫 玄礼







花紅子

園のなきあはれも  
ふさやうしう角  
き久の事よ疎て  
おのや秋の味

女琴夕

待言やと薄も  
垣とのしあや

女柳夕

月夜く河に  
白れまき草か



附録

江都

橋はまや柳い書そのもく舟	存義
まや原まにるまきつゝ花葉能中	祇並
白鹿の意をこおみかしく子	突的
深山色も楮の虫階そ門まこ	橋川
桜をかく角かえらね涼の角	湖十
星あひも磁石の針乃居る時	竹郎
まや草乃花と田毎の光下南	田社



心祇  
 門窓  
 寸長  
 舟東  
 風竹  
 鳳山  
 露柏  
 交喋  
 兼人

仲峰  
 怒封  
 竹志  
 梭鳥  
 魯郭  
 九舉  
 至芳  
 白桐  
 陸夜

十六



口の尻尾をさすなり 好の序 尾陽 本兒  
 西州にすむ神垣の唐草をぬ 白尼  
 廻板く瀉ゆすりて 蘇うふ 素人  
 雲ひくもくもあふ 其夏  
 おたぐれをきよきあれたに 淫樂をふ 都州 鬼士  
 穉ゆきの穉もゆき 鈴床 百豪  
 弱く巖土を自りき 荏計 草乙  
 登船也ゆき 大津 巨州  
 不二流る船の 赤如天の川 与路 茅啓

伽藍地の池水青く じのの花 洛 山只  
 此神くさされく 蓮の赤をきふ 山神 芦角  
 赤くもくも雨くく 上田 仙行  
 赤くもくも雨くく 上田 雀江  
 一赤くもくも雨くく 松洲  
 赤くもくも雨くく 琴楯  
 月の帯流撫と見く 須友  
 川きく臨 上野 圓之  
 少くもくも雨くく 中社 柳小



春の物さうはさうかじ舞う

大坂 淡

能くをゆきた味あは暖柳

堺 封橋

釣ちうの相うるや初電

松本 只清

夏櫻のほけの室の氷の

松本 運徒

雨風の物さういふ

市東

あさくさうはさうあさく

芦静

さきの香と酒は懐して月をふ

可鳩

あさくさうのあさくさうはさく

うづら

あさくさうのあさくさうはさく

五粒

草花のあさくさうはさく

仁科官本 五峰

あさくさうのあさくさうはさく

甲斐 梅馬

あさくさうのあさくさうはさく

梅城

あさくさうのあさくさうはさく

後所 風車

あさくさうのあさくさうはさく

小浜 吟長

あさくさうのあさくさうはさく

蕭々

あさくさうのあさくさうはさく

百株

あさくさうのあさくさうはさく

雲々

あさくさうのあさくさうはさく

芳隣

あさくさうのあさくさうはさく



来りしを菊としりしも古き歌  
 心る影や一人とよくるの息  
 他しるをほりりや 強田の心  
 口くしを事のおゆに 猿居  
 影也と約も 延巳の月  
 大黒も 流るるや 種方  
 しるのきあうもく柳の  
 名月や ぬきあうく 宇  
 新巻も 打とあうや 水徳

飯田 素人  
 桐羽  
 徳分  
 凌雲  
 心忘  
 祇道  
 楓江  
 冠山  
 李冠  
 三徳  
 柯則  
 帆歩  
 湖雁  
 花鳥  
 講素  
 羊輪  
 小田井  
 山朗

秋の月や 柳を ぬきあ 素人  
 夕なれしを ぬきあ 桐羽  
 心水も ぬきあ 徳分  
 柳を ぬきあ 凌雲  
 魂柳を ぬきあ 心忘  
 心水の世を ぬきあ 祇道  
 火とあのおけしを ぬきあ 楓江  
 ゆく秋も ぬきあ 冠山  
 花とあのおけしを ぬきあ 李冠

飯田 素人  
 桐羽  
 徳分  
 凌雲  
 心忘  
 祇道  
 楓江  
 冠山  
 李冠



くるくるとは古の川にその峰 上田 千巻  
 川橋の橋もそとと涼しく 有 續  
 又竹のあそびおもしろく 琴 宇  
 端柳の片もわづらひの秋 芳 洲  
 凡そそとと涼しくおもしろ 香 二  
 ありけりや月のあそび 經 中  
 夕まやもそとと雲も多し 平 野  
 層雲の影も我とけり 文 志  
 暮るるそとと世もわづら 暮 疎

川橋の歌や 百 免  
 秋の虹の橋あり 十 蹄  
 夕を待たせ 浮 来  
 こゝ月も 上野 一 百 羽  
 夕の霞の 栗 我  
 峰の 丹 胡  
 夕の 梅 君  
 夕の 如 白  
 初雪の松 柳 音



朽木もし海の雲や轉りて  
百景 可  
 水鳥の群をわりの けり  
和歌梅枝 魚 明  
 けりぬきや布袋の形も腰の付  
 背負れりけりや 荊籠に虫の志  
 雲の影をうり 昇りゆき  
サクラ井 流水  
 けりけりや 枝をけりけり  
和柳  
 茶うへ 情もありのさうり  
青梅  
 陸より人の老を 浮る那  
優志  
 中れ 垣の影よ 水はな 水鳥  
露桂

山くも多し 丘は 橋 持  
竹田 山  
 神まよふて けりや 園 費  
今景 波 文  
 雨のりと 雲を 吹く けり  
下平 一 葉  
 空守り けりや けり けり  
下カク 揺 風  
 夕の影のけり けり けり けり  
泉  
 木枯の 影を けり けり けり  
漱石



野の花や園をえとある天の川  
又カ尾 流克  
 水もや花の海を押し送り  
 青魚  
 月りの位やふれと枯らけ  
 梅舟  
 岩のあやふ織の中よりまゐりけ  
美保カマド 兔江  
 むよ大とこねは月夜の浦に  
 榎侯  
 塘の葉やふらけ針の一糸  
 松新  
 えんじとまゐりあるかしこ  
 白兔  
 恋傳やみればわらわの柳  
中ッ川 芦周  
 掃とく捨つてえらつて  
六井 俵乙

名もゆゑにまゐりある  
大欣 可卜  
 龍もも山は川流す村あり  
 川耕  
 雲の舞やて目まぐる雲を  
 可庭  
 う河や流ありけり御城  
土岐 じ六  
 氷のりともぬるまゐり  
云セ反 百毫  
 初音よめや朝日のあはれ  
菟子川 門耕  
 傘もやけり川流す川あり  
トカリ 蟻子  
 夕のあともあはれあやふ  
江戸 里竹  
 七も糸も糸清ておれとさうり  
 湖中



桐のふもつ鐘の一葉やりの月 若田 雲和  
 傘の雲の戸か入れりれる 楓  
 釣る舟や釣糸の雲子垣配さ 高江  
 洞やとこもむし川をのこさ 敦賀  
 松むの青もさくぬ名しりり 平原 松丈  
 千生の漕船多し 後の月 紫山  
 柳しし艘の舟も 異なりぬ 亀卜  
 美竹や異の味はゆき細く 竹葉  
 松のつらさくさくさく 千山

異なりし口ぬこし 三 指 柳屋  
 鶯もよおさえて 花乃雪 ハニ 梅茂  
 入道の蛙も鳴る 田畑うさ 椋鳥  
 枯枝の枝も鳴るのもうし 梧夕  
 牧草のししをさめく 長産 幸和  
 山鹿のあつめ 茶尺  
 釣る舟や釣糸の雲子 松雪  
 錦織の舟も鳴る ヤハタ 曲調  
 少り神もさく 至岡 素笥



ぬす人の道は海あり大根車  
小諸 杉郎  
 水田の花曇りありとす掃  
 鳥白  
 鼻肩へも唄ふらうぬ田植うさ  
 戸慈  
 ま夏細い浪は社しては千の舟  
 鳥白  
 旅の道も千里や柱登る  
 杉史  
 さんほくやて身は社と深なる  
 里桃  
 川舟のゆりもさるれうさ  
 玉珂  
 夕りしらさよ一刷毛深りる危  
 牛長  
 けり合もぬ尾節の鳴鶴  
 虎文

空の秋とみ呂や女郎花  
飯所 薩香  
 青柳の鏡の水解きうり  
腰斬 拾翠  
 後舟も揺ておるや花の枝  
 風仙  
 孤舟も月を旅あはれ登る  
列下 孤月  
 玉芥  
 いーさやあか思ふよあふ花  
舌人 竜吟  
 鈴舟やうさものねよとより家  
田沢 揺柳  
 二つあり下でや露の結ひ合  
 止雀  
 海りし花もあけり青甲子  
岩村 松栢







竹のふしおりの親いさぬもの 本 猿吟  
 石山より舟の跡や船を引に 本 竹源  
 舟のしりぬきれぬく少く船 穴 卜雨  
 きんくつ波をさく清し山留 穴 敵花  
 舟合ふえんれぬ船や舟の舟 下スワ 舟庭  
 舟神にかんしよめり可ぬ舟 下 六丈  
 娘舟さく船の医者の加減は 下 蝦蟇  
 三つ舟の川よのきり洲くさ 下 百隣  
 七種の神代もさき分り舟 下 貴和

舟のふしおりの親いさぬもの 本 松吟  
 石山より舟の跡や船を引に 本 某山  
 舟のしりぬきれぬく少く船 スワ 元水  
 きんくつ波をさく清し山留 スワ 千里  
 舟合ふえんれぬ船や舟の舟 洛 各偏  
 舟神にかんしよめり可ぬ舟 洛 舍来  
 娘舟さく船の医者の加減は 上野 竜山  
 三つ舟の川よのきり洲くさ 上野 以帆  
 七種の神代もさき分り舟 下仁田 政夏











上田郡川島村下飯沼天

上田郡川島村下飯沼天 下飯沼一町

小澤源一郎

川島村

下飯沼一町

菜